

タブレットで手話通訳

市民センターなどで導入

市からようき

無料アプリを利用。市は「窓口の担当職員が地図ソフトを健常者に示すなど、障害の有無を超えたタブレット端末の利用を進めた」としている。

(井原尚基)

明石市はタブレット端末を使った遠隔手話通訳システムを導入し、15日から運用する。市立総合福祉センター(貴崎1)と3市民センター(大久保、魚住、二見)を訪れた聴覚障害者が、市役所の手話通訳者を介して窓口担当者とコミュニケーションを図れるようになる。

市が昨年9月の一般

会計補正予算に盛り込んだ事業。タブレット端末を市役所の手話通訳者席と4施設に配置し、手話通訳者は聴覚障害者と窓口担当者の意思疎通を仲立ちする。市は音声認識ソフトも導入し、市障害福祉課窓口で使用できるようにする。

テレビ電話システムは2月中旬から明石駅構内の観光案内所にも



タブレット端末を使った手話通訳の実演Ⅱ
明石市役所